



## 私と私の頭の中

株式会社 青木工業所

代表取締役 青木 啓明

この度、(公財)富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館様の館報「教育記念館」の巻頭言の執筆の依頼を受け、大変恐縮すると共に、配布先が多岐にわたり、一体何について書けばいいのだろうかと大変悩みました。悩んだ結果、答えが出なかったのご依頼時の「自由に書いてください」の言葉を信じて、自分のことを自由に書きたいと思います。

私は昭和51年富山市生まれ、国立富山工業高等専門学校 機械工学科を卒業して社会人の一員となりました。当時は学校に来る求人情報には目もくれず、自分の好きだったチューニングカー雑誌に載っているメーカーに片っ端から手紙を出し、返信が来た中から1社だけ入社試験を受けに行き、受かったのでそのまま群馬県にあったそのメーカーに就職しました。

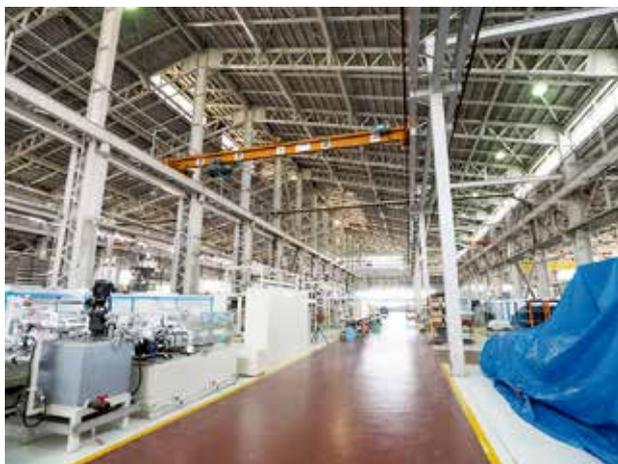
その会社では市販車用のサスペンションキットの開発に携わると同時に、会社から出場していた全日本ラリー選手権にチームエンジニアとして参加していました。ラリーという競技は封鎖した一般道をいかに速く走るかなどを競う競技で、狭い道をもものすごいスピードで走るの、競技中にぶついたりして車を壊しながらサービス拠点(メンテナンスをする会場)に帰って来ます。次の競技区間でも速く走る為になるべく元の状態に直さなければいけないのですが、サービスの時間も決まっています(超過するとペナルティ)、その時間内にいかに元の状態に近づけられるかがメカニック、エンジニアに課せられた課題とも言えます。メカニック達は車の状態とどの作業なら時間内に終わるかを瞬時に判断して作業に取り掛かり、瞬間に車を最高の状態に近づけて送り出します。私もエンジニアとして指示を出しつつ作業にも参加していたのですが、事前のシミュレーションと自身の能力の把握、時間内に可能な作業を理路整然と考えていく姿などは大変勉強になり今も私の中に根付いている考えだと思っています。

30歳になり、父の死などもあり富山に帰って来ました。帰ってくるならば伯父が代表、伯母が経理、そして父が設計者として従事していた会社を手伝おうということで今の会社に入りました。前の会社では手で持てる程度の車の部品の設計しかしたことがなかったですが、

今の会社では工場などの自動生産設備を設計・製作しており、20~30mほどの長さの生産ラインなどを部品一つ一つから設計していかなければならず、その違いに大変苦労しました。また自身で設計する部品だけではなく、モーターやセンサーなど購入してきて取り付ける部品も多岐にわたり、覚えるのにも大変でした。まだまだ覚えていかなければいけないことは多くありますが、ある程度の知識と経験ができた今では、世の中のものを見るときに、どのような構造になっているのか、どんな仕組みで動いているのかなどを常に考えるようになりました。また、「今までと同じ」が嫌いな性格で、いつも別の方法がないかを考え続けています。トイレの個室に座っている時も、入口のドアにカギをかける方法をいくつも考えてみたりしています。常に色々なことを考え続けることによって、いろんなアイデアがふと浮かんできたりすると思っています。

どんな仕事でも学生時代に勉強したことがそのまま使えた、役に立ったということはほとんどなかったと思います。学生時代に勉強したことは引き出しに見出しを付けた程度で、引き出しの中身は社会人になってから少しずつ勉強して埋めていったという印象です。ただ見出しのない真っさらな引き出しよりは見出しのついた引き出しの方が取っ付き易いので、学生時代にしっかり勉強しておくことも重要だと思います。息子たちや縁があって話す機会があった若者には伝えていきたいと思っています。

弊社は今年で創立60周年を迎えます。世の中をより便利にするために、柔軟な発想とそれを実現する技術で社会に貢献して参りますので今後ともよろしくお願い致します。



株式会社青木工業所 工場内



全日本ラリー2006in赤井川(北海道)優勝